経会陰エコーが分娩誘発の転機予測に有用か評価する前方視的検討

１．研究の対象

2022 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日の間に山梨県立中央病院産科にて分娩誘発を行った妊婦

２．研究目的・方法

研究実施期間：研究機関の長の許可日～2024 年 12 月 31 日

分娩誘発は、本来自然に起こる陣痛を薬や機械的な処置によって人工的に発生させることを指します。その適応は、予定日超過・前期破水・妊娠高血圧症候群・胎児発育不全・社会的要因など様々です。分娩誘発が成功しない場合は、多くの症例で緊急帝王切開が必要となりますが、緊急帝王切開は予定帝王切開と比較し、母児ともに有害事象が多いことが広く知られています。そのため、事前に分娩誘発失敗のリスク因子について熟知し、十分な治療戦略を立てることは非常に重要であると考えます。分娩誘発失敗のリスク因子として、誘発剤使用前の診察所見（いわゆる内診）が有用とされるが、これは指で診察した所見を指し客観性に乏しいことが指摘されている。そのため、これに変わる方法として経会陰エコーがこれまで報告されていますが、本邦の患者を対象に前方視的に検討した報告はありません。そのため、経会陰エコーと分娩誘発の関連について十分なエビデンスはないのが現状です。本研究は研究対象者の分娩誘発前の会陰エコーの所見から分娩誘発の成功または失敗が予想できるかどうか検討することが目的である。

３．研究に用いる情報の種類

①患者基本情報；年齢、性別、診断名、妊娠方法、分娩回数、早産既往、妊娠糖尿病と妊娠高血圧症候群の有無、体格、家族歴

②血液検査・超音波データ

③分娩時情報；出生体重、児の性別、臍帯血 ph、Ap スコア、分娩時出血量、分娩後から２４時間経過するまでの出血量、子宮収縮剤の使用量

①　　４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。申し出をいただいた時点で、既に学会や論文として発表されている場合は取り消しができないこともあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

山梨県立中央病院　研究責任者：産科　篠原諭史

〒400-8506　山梨県甲府市富士見一丁目１番１号　TEL：055-253-7111（代表）

----------以上